

**はじめに**

- ・ 特別支援の児童に効果的なことは、通常学級の子どもたちにも効果的であると言われています。
- ・ 特別支援学級での英語活動の取組とその効果について、期待されています。（資料1-1）
- ・ 児童のニーズにより、次に掲げるような外国語活動の**アクティビティ**を考えました。

**学級の児童のニーズと**アクティビティ****

**①感情のコントロールがうまくできない。**

- ・ 順番や勝ち負けにこだわる。

**→誰でもバスケット**

（資料2 負けるとスペシャルゲームができるので負けた気分にならない）

**②集中力が続かない。**

**→おおきなサイコロでじゅうたんすごろく**

（体を大きく動かす。ゲームのルールがわかりやすく自分の番が来るまで待てるようなもの）

**③人との関わりがうまくできない。**

- ・ 人の感情を読み取るのが苦手。
- ・ 相手が何を考えているのか推し量れない。

**→朝のあいさつ/マイクでこんにちわ**（日本語や外国語で）

**→感情ぴったんこゲーム**（資料3）

**④生活体験の不足**

**→買い物活動や流しぞうめん**

**→3ヒントクイズ**

（身近な生活と関わっているもの）

**⑤言葉理解の弱さ**

**→something is falling down**（資料3）

**→絵や図、写真、音楽、リズムなどでイメージを補足する**

**⑥見通しや関係性把握の弱さ**

- ・ 一度に多くの情報を与えられると混乱する。

**→1時間の流れや順番表を黒板に示しておく**

**⑦音楽やリズムに合わせて動くことが得意**

**→チャンツでエクササイズ**（資料1-2）

\* それぞれのニーズにそれぞれのアクティビティがあるわけではなく、密接に関連しています。

#### 資料 1-1

(英語活動と国際理解教育 2010/12/05 塚田レポートより抜粋)

①英語はリズムがよく、脳科学的\*に見ても児童の情緒の安定や、積極的になれるなど児童の能力開発に効果的であり、**特別なニーズを持つ子どもたちにも効果的である**と言われている。

(\*伊藤敏克「小学校における外国と活動の意義と役割」)

実際、「こんにちは」は言えないのに hello は言える。すわりなさいの指示は聞けないが「sit down」の指示には従える、不登校の児童が英語活動のある日は登校するということがある。

#### ②外国語教育と国際理解教育の接点としての言語意識教育

EUの先行研究より～複数の言語に触れる活動は、他者の言語と文化などに関心を持つことにつながる。「複数言語を用いる児童の方が言語への関心が強くなり、読み書きの学習でよりすぐれた能力を発揮する」「言語の多様性に対する感受性を養うことにより、様々な言語やそれを用いる人々に対して好意的な態度を示すようになる。」などの(志賀 2004)の報告がある。特筆すべきは、それぞれの言語の学習に際して、言語だけでなく、文化的な側面が体験活動として埋め込まれていることである。

このように多言語モデルの言語意識教育は、言葉の教育でありながらも国際理解教育との接点となりうる可能性を秘めている。

#### ③「生きる力」の素地を形成する英語活動

・近年、英語を外国語教育としてではなく、国際語あるいは第二言語としての英語教育という考えに移行しつつある(Mckay2002) 国際語には、「共通言語としての英語学習」と「異文化間のコミュニケーション手段としての言語学習」という二面性がある。

##### ア 音声教育の充実

イ 異文化理解学習 例えば、世界のあいさつ学習では、音声は異なるが、人々が気持ちを託して使っている言葉であるという気づきがあってほしい。

ウ 自己表現のための学習 伝えたいメッセージを持てる能力、状況に応じて適切な形で伝えられる能力

エ 体験学習(アクティビティ) 外国人のゲストを招かなくても、コミュニケーションや情報のギャップはいたるところに存在する。例えば「大人と子ども」「男と女」「賛成者と反対者」「障害のあるなし」など。子どもの個性を尊重し、各自が自分のメッセージを発信し合い、互いの個性をすばらしいものとして認識しあえるように支援する。(子どもの生きる力を育てる英語活動—教材と自己表現活動の役割 豊田ひろ子)

#### 資料 1-2

動作を伴った音声は記憶されやすいことが脳科学で明らかにされており、「筋肉記憶」と通称呼ばれている。(E. Romijn & G. Seely Live Action English. Alemany Press. 田崎清忠編 『現代英語教授法総覧』大修館書店)